

診療科案内

保存科

保存科は、「いつまでも患者さん自身の歯で噛めるよう、歯を抜くことなく保存する」治療を行う診療科です。歯を失う原因にむし歯の進行による歯硬組織の崩壊やそれに伴う歯の神経（歯髄）や歯の根（根管）の病気があります。保存科では、むし歯などによる歯の欠損を修理し、審美治療を行う「保存修復科」と歯の歯髄と根管の治療を行う「歯内療法科」に分かれています。

保存修復科における最近のむし歯治療は、初期のむし歯であれば健康な歯質はできるだけ削らず、接着性修復材料（コンポジットレジン）を用いて審美的に修復します。比較的大きな欠損を伴う症例では、歯科材料の進化に伴い、歯の色にマッチしない金属による修復法から、歯冠色を呈するアレルギーの無いセラミックなどによる修復法を行っています（写真1）。さらに加齢やその他の原因で生じた歯の変色や正中離開歯（前歯のすきっ歯）などの審美的な改善を希望する患者さんには、ホワイトニングやコンポジットレジン修復により、歯を切削することなく口元を白くきれいに改善することができます（写真2）。

むし歯を放置すると、細菌感染が歯髄に及びズズキした激痛が生じます（歯髄炎）。更に放置すると歯髄が死んで腐敗して根管内で細菌が繁殖し、根の先の骨を溶かして膿が溜まります（根尖性歯周炎）。歯内療法科では、歯髄炎の際は適切に歯髄を除去し、根尖性歯周炎では根管内の細菌などを徹底的に除去します。そして最後に再び細菌に感染しないよう根管を生体に無害な材料で緊密に封鎖する

治療を行います。これによって、神経の無い歯でも保存することができるのです。しかし、多くの根管はとて細く曲がりくねっているため、非常に困難で熟練した治療技術が必要です。このため、治療用顕微鏡を導入し最新の根管治療機器を用いて治療を行っています（写真3）。

保存科では日本歯科保存学会が認定した多くの歯科保存治療認定医・専門医が治療に従事しています。

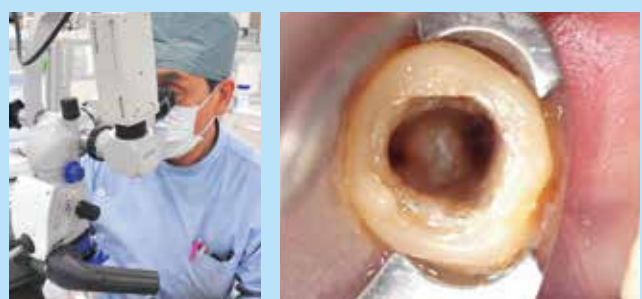
写真1



写真2



写真3



薬剤室より

薬の形の違いで効果がどのように変わるか

飲み薬には錠剤、カプセル剤、散剤、水剤などの種類があります。

形が小さいほど効果が現れるのが速く、水剤⇒散剤⇒錠剤・カプセル剤の順になっていますが、個々の製品や成分によっても効果の現れる時間が多少違ってきます。

錠剤やカプセル剤は、味の悪い薬や匂いの強い薬を飲みやすくするという利点がありますし、体の中でゆっくりと溶けることで効果が長時間持続するように工夫されている錠剤、カプセル剤、顆粒剤などもあります。

薬を速く効かせようとしてカプセルを割ったり、錠剤を噛み砕いたりすると速く溶けすぎたり、腸で溶かしたい薬が胃で溶けることにより期待する効果が現れないだけでなく、胃や腸を刺激して副作用の原因になることもあるので注意してください。



錠剤やカプセル剤を飲むことができない場合には、散剤を選択することもあります。散剤は小児の服用が多いため、飲ませやすいよう比較的甘くなるように工夫されています。当院採用薬を例に挙げます。

- ・パセトシン細粒：パイナップル風味で甘い。
- ・ケフラル細粒小児用：オレンジ風味。僅かに苦い。
- ・セフゾン細粒小児用：イチゴ味。そのままでも美味しい。
- ・カロナール細粒：僅かにオレンジの香り。はじめは甘いですが、あとで少し苦味が残るのが特徴。

薬が飲みにくい等あれば、医師や薬剤師にご相談ください。



落語立川流：立川抜志
松戸歯学部卒（5期生）

はいしゃ はなしか歯医者さんのひとりごと 第12話 コラコラ！歯医者さんを脅しに使わないでよ！

子供が言うことを聞かない時、どうします？

たまに遭遇するのが、私を指さしながら「この人、歯医者さんなんだよ。言うこと聞かないと、歯をガーってやってもらうよ！」これがまた効果テキメンでして、たちどころに子供が静かになる…。ヒトを便利に使うなってコトではなく、子供に、歯医者さんが怖いところだってことを刷り込まないでもらいたいってことです。

それだけでなく、大人でも歯医者さんをむやみに怖がる人が多いもんですから、親が怖いもんは子供もむやみに怖い…だからと言って、普段それをうまく利用して、言うこと聞かせて…脅して言うことを聞かせるなんて乱暴な！北の危ない国みたいですね。

こんな子を、いざ歯医者に連れてくと、そりゃあもう、治療になんかなりませんですよ…。

もっと子供には考えて接しないとね！そして親もむ

やみに怖がらない！

だまして連れてくりゃ、またトラウマになりますし、「痛くないよ、怖くないよ、何にもしないよ！」なんて言われて連れてこられた子に、なんかやったらウソつきですからねえ…。

第一、こんなこと言ったら、ちょっと勘の良い子は、どんなに痛くて怖いところに連れていかれるかって思うわねえ…。

そして、むやみに怖いところに連れていかれた挙句、ウソまでつかれて、仕舞いには拷問に遭う！コワイよな、そりゃあ…。

絶対、子供の精神に良くない影響が残りますよ！歯医者恐怖症だけじゃありません、親を信用しなくなる！性格が曲がる！大変なことですよコレは…。

きゃ〜コワイ！

コラあ〜！こんな事する親には、でっかい注射するぞ〜！

寄席に行ってきました！

本誌でおなじみの立川抜志先生が出演する落語を聴きに、神田はお江戸日本橋亭まで行って参りました。前方の座布団に腰を下ろして、代わるがわる出演する噺家や曲芸師の芸を極間近で見ました。笑えなかったときはいかげしやと思っていましたが、面白いだけではなく泣けてしまう場面もありました。落語家が一人ポツンと赤い台の上で話すのですが、何役もこなし、声やしぐさを変えることで聴き手にとっては登場人物が何人もいて、周りの風景や食べ物や道具まで浮かんで見えてくるような不思議な感覚が味わえます。久しぶりに腹を抱えて笑って満足しました。おまけに可愛い歯ブラシのお土産付きで何とも粋な計らいでした。皆様もいかがでしょうか。

委員長 小松崎康文



松戸まつりに参加しました！

10月7日、8日に第44回松戸まつりが行われました。伊勢丹通りに松戸歯学部ブースを設置し、お口の悩み相談と歯みがき相談のイベントを行いました。当院のイクメン歯科医師が揃っていたこともあり、軽い呼び込みにも多くの方が立ち寄ってくださいました（2日間で700名）。近くの出店で買ったものを食べながら、もしくは少し赤くなってご機嫌の方、小学生のグループなど来訪者は様々でした。気さくな雰囲気の中で、きっと当院を身近に感じていただけたのではないかと思います。もちろん広報誌「歯とPepper」も忘れずにお渡ししアピールさせていただきました。また、来年もよろしくお願いたします。



～歯に関する映画～ 鬼オティム・バートンが描く不思議な世界「チャーリーとチョコレート工場」

主人公はジョニー・デップ演じる「ウィリー・ウォンカ」。彼の父親は歯医者でチョコレートは悪い物と考えており、ウォンカ少年はチョコレートを食べることを許してもらえませんでした。

そんな環境で育ったためか、ウォンカのチョコレートに対する思いはドンドンと膨れ上がり、世界一のチョコレート工場を作るまでに成長します。

ウォンカのチョコレート工場は完全非公開！工場に入れるのは特別なチケットを持った5人だけ…。その幸運のチケットを手にしたチャーリーをはじめ、子供たちが体験する不思議の世界のお話し。

歯医者さんは意外とチョコレート好きが多いんですよ〜チョコを食べたら良く歯を磨きましょうね☆
(チャーリーとチョコレート工場 ワナー・ブラザーズ 2005年公開) 映画大好きワインちゃん